

Web 版

社教ニュース

ときたまご



令和6年8月23日（第3号） 山形市教育委員会社会教育青少年課

学校と地域の連携・協働を深める創立記念 ～蔵王第三小学校創立150周年記念事業～

蔵王第三小学校は明治7年に当時の高湯村の民家を借りて「高湯小学校」として誕生しました。その後、昭和22年に山形市立蔵王第二中学校が、小学校に併設する形で「高湯中学校」として創立しました。

今年、創立150周年を迎え、記念事業として「高湯古道ウォーク」を学校と地域で計画しました。6名の児童・生徒は地域を学ぶ学習として「高湯古道と観光地蔵王温泉の発展と歴史を知りたいな、伝えたいな。」を行いました。

5月14日（火）の午前中に地域の方が講師になり、「高湯古道講話」が行われました。子どもたちは高湯古道について学び、およそ10Kmの道のりを自分たちも歩いてみたいという思いを高めました。

同日の午後、子どもたちは株式会社山形新聞から過去の記事の提供を受け、その記事から高湯古道について情報を集めました。地域の方と校長先生は子どもたちが歩く古道の草刈りや枝払いなど、整備を行いました。地域の方は子どもたちに危険がないように、また、楽しく歩くことができるように考えながら、整備を2回行ったそうです。

5月22日（水）いよいよ古道ウォークです。晴れ渡る青空のもと、子どもたちは記念タオルを首に巻いて先生方や保護者、地域の方と一緒に蔵王半郷にある松尾山からスタートしました。5時間ほどかけてゴールの蔵王温泉の高湯通りまで歩き通しました。

7月2日（火）に執り行われた記念式典では、子どもたちは「蔵王温泉」について学んだことを参列したたくさんの方に伝えることができました。

～5/22「古道ウォーク」に参加した方の声～

○子ども（閉会行事の感想より）

- ・昔の人の気持ちを考えながら歩くことができた。
- ・昔の人は蔵王温泉に入るために歩いてきた。
- ・昔の人はこれだけきつい思いをしても蔵王温泉に来たかった。
- ・普段車に乗っていると見れないものを今日は見る事ができた。

○先生方

〈三浦校長〉（閉会行事のお話より）

- ・蔵王温泉地区の支えで150年続いている学校、そして地域の魅力を子どもたちは歩いてみて気が付くことができた。
- ・訪れる人は長い距離を歩き、蔵王の人の「あたたかいまごころ」にふれて、また来たくなったのではないだろうか。
- ・150年の節目をつなぐのはこの6名の子どもたちである。

〈担任〉

- ・地域の方は蔵王のことを何でも知っている。
- ・子どもたちは今日の体験で蔵王の価値、魅力に気が付いたのではないかと思うが、これらは当たり前なものではない。地域の方は昔から努力、工夫し、維持してきた。その歴史があって今がある。
- ・今日の体験から昔の人の思いや願いを感じ、今自分に何ができるか考え、発信できるようにしていきたい。今日、子どもたちが受け取ったバトンを次の世代に渡してほしい。

○地域の方

- ・子どもの思い、子どもの声は私たちの励みになる。
- ・昨年度は下見を行い、今年度は下刈りを2回行った。歩きやすいように笹をできるだけ下から刈ったり、倒木をあえてそのまま残して子どものアドベンチャーにしたりと、子どもファーストで考えていた。
- ・子どもたちはけがなく歩くことができたが、古道が整備されている状況は当たり前ではない。今日の学習をきっかけに地域の方の思いを感じてほしい。将来は子どものために何かできるような大人になってほしい。
- ・今日の活動が、みんなが集まるきっかけになった。

学校の創立記念は、地域の未来・子どもの未来を考える地域住民と教職員が一緒になって子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」につながる貴重な「地域学校協働活動」となるようです。地域住民の思いにふれた子どもたちは、地域に対する愛情を持ち、地域、そして社会の創り手として育っていくのではないかと考えています。